

地方小規模女子大学でのキャリア形成支援(2)

—— 授業での取り組み ——

太 田 千 秋

Carrier Development Support at a Small Provincial Women's University (2)

—— Class Based Approach ——

Chiaki OTA

1. はじめに

群馬県立女子大学（以下、本学と表記）は、群馬県南部佐波郡に位置する学生数約1000名程度の小規模女子大学である。学部としては文学部と国際コミュニケーション学部の2学部があり、学生の県内出身者率は約45%と、県外出身者が県内出身者を越えているのが特徴である。本学は2014年4月にキャリア支援センターを設置した。これは、「今日の複雑化多様化する社会の中で、学生が目的意識を持って自らの将来のキャリアを考え、生涯を通じた就業力を身に付けることにより、社会的職業的な自立を図ることを支援するため、キャリア教育と就職支援業務を総合的に行う⁽¹⁾」ものである。キャリア支援センターでは、「①キャリア教育に関すること ②学生の就職支援に関すること ③その他学生の進路支援に関すること の業務を行う⁽²⁾」こととし、そのための専任教員として筆者は2015年4月から着任した。

2017年度に3年目に入った全学的キャリア形成支援（以下、キャリア支援と表記）のうち、ここでは2015年度から内容検討・見直しを行ってきた本学キャリア教育の柱となる授業での取り組みについての考え方を述べる。さらに、キャリア支援センター開講科目のうち、主に筆者が担当している科目の実践内容と状況を紹介し、今後のキャリア教育に求められる方向性を述べる。

2. キャリア教育とは

キャリア教育とは、一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達（社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく過程）を促す教育である（平成23年度1月31日中央審議会）。キャリア教育の目的は、子どもたちを自らの進路（生活と労働）の主人公に育てることであり（児美川2007）、最終教育機関としての大学で行われるキャリア教育では、自らの選択によって主体的に生きる人間を社会に送り出すことを常に意識しなければならない。本学では、すべての教職員が場合に応じて学生の個別支援の担い手となるよう体制を整えることで学生のキャリア発達を促すことを目指している。

キャリア教育の内容として児美川（2007）は、自己理解を深めてなりたい自分を探求することや、職業や卒業後の情報を収集したり調査学習を行ったりして自らのキャリアプランを描いてみるといった「キャリアガイダンス」的な内容にとどまることで狭い視野での「進路希望探し」に終始したり、現実と交差しない机上プランになってしまったりしないことが重要だとしている。そこでは、人が人間らしく生き、働くとはどういうことなのかについて本質的な理解を深めると同時に、現代社会における人間の生きざまや働き方、産業構造や職業、労働の実態について科学的な認識を

獲得することが求められるとしている。さらに、労働と職業についての本来的なあり方を理解するとともに、現代の日本社会における実態を、肯定的な面だけでなく、今後克服していくべき側面についてもしっかりと認識をしていくことが必要であるとも述べている。

本学キャリア教育の授業では、学生が主体的に「生きる」なかに「働く」役割を担うことを位置づけられるようになること、漕ぎ出でていく社会の現状を知ること重点を置く。そして、大学卒業後に備えて、大学時代に何を身につけなければいけないかを学生に理解させる。それらを通して、大学での学び・生活を送る中で職業的に意味を持つ力量を身につけ⁽³⁾、将来的には人々が充実した生き方・働き方ができるよう周りを巻き込み社会に変化をもたらすことのできる人材の育成をめざしている。

3. キャリア支援センター開講科目

本学では2016年度より、キャリア教育に関係する科目を「キャリア支援センター開講科目」としてまとめて体系づけている。キャリア支援センター開講科目は主に5種類（①社会理解、②自己理解、③知識習得、④スキル習得、⑤ロールモデル提示）の内容で構成されている。4月に配布される履修要綱でねらいを説明するとともに、キャリア教育担当の専任教員が新年度の学生対象オリエンテーションで内容・モデル履修パターンを周知している。これらの科目は進路選択や就職活動、その後の生涯に役立つとともに大学生活を有意義にするものであるため、低学年から計画的に履修することを勧めている。特に「キャリアデザインⅠ」・「キャリアデザインⅡ」は本学キャリア教育の基幹科目として位置づけており、学生に対して初年次からの履修を促すとともに、新入生の保護者に対しても入学式当日に行われる進路・就職についての講話の中で履修を積極的に勧めるように働きかけている。これら各科目は選択科目であり、2016年度入学者からキャップ制⁽⁴⁾対象外科目として学生の履修し易さに配慮している。

3.1 科目のねらい（2016年度履修要綱から抜粋）

キャリア支援センター開講科目では、自分のこと、社会のこと、多様な生き方があることを学ぶ。これらのキャリア形成に欠かせない学びを通して、社会の構成員としての自らの生き方を考え自分らしく生きる道筋を見だし、それを将来のための行動に結びつけることをめざす。

3.2 実施概要

キャリア支援センター開講科目の実施概要は、表1・表2・表3の通りである。

表1 科目名、単位数、開講期、履修年次（2017年度）

	科 目	単位	開講期	履修年次
1	キャリアデザインⅠ	2	前期	1年～
2	キャリアデザインⅡ	2	後期	2年～
3	女性の新しい生き方を見つけよう（リレー講座）	2	後期	1年～
4	リーダーから学ぶ企業経営（リレー講座）	2	後期	2年～
5	インターンシップ（自律学修）	2	—	2年～
6	ビジネス演習	2	前期	3年～
7	自己表現演習	2	後期	3年～
8	就職のための基礎教養	2	後期	3年～
9	就職筆記試験演習	2	後期	2年～
10	公共政策演習	2	前期	2年～

表2 モデル履修パターン (2017年度)

	1年		2年		3年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
キャリア全般	キャリアデザインⅠ			キャリアデザインⅡ		
インターンシップ					インターンシップ (自律学修)	
働くこと ロールモデル業 界研究		女性の新しい生 き方を見つけよ う		リーダーから学 ぶ企業経営		
自己理解 スキル習得					ビジネス演習 (マナー)	自己表現演習
教養・筆記試験 対策				就職筆記試験演 習	公共政策演習 (小論文)	就職のための基 礎教養 (時事)

※キャリア支援センター副センター長 教授 安斎徹氏作成のものを修正

表3 履修者数、授業評価アンケート結果 (専任教員担当授業) の年次推移

科目名	2015年度		2016年度		2017年度	
	履修者数	満足度	履修者数	満足度	履修者数	満足度
キャリアデザインⅠ	61	4.91	177	4.69	195	4.64
キャリアデザインⅡ	53	4.82	64	4.85	118	未実施
女性の新しい生き方を見つけよう	114	4.55	84	4.62	88	未実施
リーダーから学ぶ企業経営	40	4.79	29	4.73	52	未実施
インターンシップ	53	—	26	—	16	—

※満足度の回答は5段階評価⁽⁵⁾、インターンシップ：履修者数は学内幹旋型インターンシップに参加した人数のみ、授業評価アンケートは実施していないので満足度欄数値はなし。

3.2.1 キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ (2012年度開講)

2015年度から専任教員が主に担当⁽⁶⁾し、それまでのものとは授業内容を一新した。内容・講師が変わったことで学生が様子見をしたのか、履修者数は2014年度に比べて2015年度は減少したが、2016年度の1年生からはキャップ制対象外科目としたこともあり増加に転じ、以降は年度を追うごとに増えている。2017年度のキャリアデザインⅠは1学年の約4/5の学生が、キャリアデザインⅡは約1/2の学生が履修したことになる。授業内容の詳細は後述する。

3.2.2 女性の新しい生き方を見つけよう (2006年度開講、上廣倫理財団連携講座)

実務の第一線で現在活躍中の女性講師を招いてのリレー講座である。学生にとっては学内で社会人の人生の軌跡を聴くことができ、働くことの現実を知ることができる貴重な授業となっている。期末課題レポートからは、授業を通して生き方・仕事に対する向き合い方について、14人の講師に共通するものがあることを学んでいることが伺える。履修者数と授業評価アンケートの満足度は、ともに安定推移している (表3)。

〈女性の新しい生き方を見つけよう〉 2017年度 授業概要

【授業目標】実務の第一線で現在活躍中の女性を講師としてお招きする。多岐にわたる業界において、実社会で活躍する女性の新しい生き方・働き方を学ぶ機会を提供することにより、将来の自らの生き方・働き方を見つけるための一助とする。

【到達目標】実社会で活躍する女性の新しい生き方・働き方を学ぶことによって、自らの生き方・働き方を見つけるための手がかりを得ることができる。

【内容】女性実務家から、それぞれの生き方や仕事への向き合い方を学ぶ。

【講師業界・職種等】講演順：出版、コンサルティング、放送、ホテル、メーカー（化粧品）、旅行、商社、メーカー（食品）、IT 関連、銀行、通訳業、マスコミ（レポーター）、生命保険、航空（客室乗務員）など

【学生課題】毎週レポートを提出。期末に課題レポートを提出。

3.2.3 リーダーから学ぶ企業経営（2014年度開講）

主に群馬県を中心とした企業のトップリーダーを招いてのリレー講座である。学生にとっては学内で各企業の経営戦略と課題、地域経済の現状などについて聴くことができる貴重な授業となっている。期末課題レポートの内容からは、学生が企業・産業について理解を深め、それらが社会で担っている役割について俯瞰して考えたり現代社会の変化の速さに気づいたりする機会になっていることが伺える。履修者数と授業評価アンケートの満足度は、ともに安定推移している（表3）。

〈リーダーから学ぶ企業経営〉 2017年度 授業概要

【授業目標】地域経済とグローバル化時代の地域のあり方を考える視点を養う。

【到達目標】①地域経済の現状、課題及び今後の展望を考察することができる。
②質問のスキルを理解し、実践できるようになる。

【内容】企業の経営戦略と課題、地域経済の現状などについて学ぶ。

【企業業種名】講演順：機械、銀行、小売、水産・農林、IT・通信、電気機器、サービス（旅行）、銀行、損害保険、商社、輸送用機器、食品、その他金融

【学生課題】毎週レポート提出、期末に課題レポート提出。

3.2.4 インターンシップ（自律学修）

本学のインターンシップは「自律学修科目」として扱っている。これは通常の授業とは異なり、教員の指導の下に学生が自主的に計画を立てて行う学修である。本学インターンシップは、大学を通して企業・行政組織などで実習を行う「内部幹旋型」と、学生が個別に企業・行政組織などに応募し参加する「自由応募型」の2種類がある。社会の情勢にあわせ、内部幹旋型のインターンシップは2015年度から実施方式・事前教育・事後教育などに大幅な変更を加えた。それぞれの実施概要は以下の通りである。

①内部幹旋型インターンシップ（以下、「内部幹旋型」と表記）

事前教育（講義4回、参加必須）、実習30時間以上、事後教育（レポート提出、面談）で1単位を認定する。実習先は、これまでの受け入れ実績などを踏まえた実習先リスト（2017年度は24事業

所)の中から学生が選び、担当教員によるマッチング面談を行ったうえで進路希望などを考慮して決定する。主な実習先は、群馬県内企業・行政組織などである。

②自由応募型インターンシップ (以下、「自由応募型」と表記)

企業・行政組織などの募集に応じて、学生が自由に応募する。実習30時間以上(複数の実習先の合算可)、実習後のレポート提出と必要に応じて面談・レポート添削指導による事後教育を行うことで1単位を認定する。事前教育への出席は必須ではないが、実習参加を予定している学生には、実習を有意義なものとするために出席を強く勧めており、2017年度は各回約100名が参加した。募集情報は、大学に寄せられる個別の情報をキャリア支援センター設置のインターンシップ掲示板・備え付けの専用ファイルで学生に提供しているほか、企業・行政組織のホームページや就活サイトを活用して各自で積極的に入手するよう、セミナー等で指導している。2017年度6月実施の「自由応募型インターンシップにいこう！」セミナーには140名が参加した。

本学では、夏のインターンシップが企業の採用活動の一環として本格的に組み込まれ始めた2016年度から、自由応募型への参加を推進してきた。その結果、自由応募型への応募は増加し、学内幹旋型への応募は減少している。自由応募型に参加する学生の中には、全国各地の企業への応募の他、県外出身者が出身地の行政組織のホームページから情報を得て応募するケースが増えている。自由応募型は実習先・実習期間・実施形態・内容が多様であり、学生が自らの目的に合わせて選ぶことができるという利点がある。志望業界が定まっている学生がその業界のインターンシップに行くことはもちろんのこと、定まっていない学生でも様々な業界に属する企業のインターンシップに足を運ぶことで業界理解が進み志望業界が明確になるなど、学生にとっては仕事社会を理解する有意義な機会となっている。レポートには、「業界に対して持っていたイメージが覆った」「正社員の仕事の幅広さと求められる質の高さがわかった」「現在の自分に足りないものが見えてきた」などの記述が目立つ。そこからは、イメージで捕らえている社会・仕事を現実のものとして考えるきっかけとしてインターンシップが活用されていることが伺える。

4. キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ

4.1 キャリアデザインの授業

キャリアデザインⅠ・Ⅱの根底に置くのは、「キャリアデザイン学」の考えである。筒井(2016)は、「キャリアデザイン学は、自己の本来的使命は何か、どんな社会で生きてゆきたいかを問いつける学問である」とし、キャリア教育は、「個人/社会」「理想/現実」の軸を意識して行われるものであるとしている。授業では、二つの軸の視点を通して、個人の「主観的願望」と社会で生き抜くという「客観的現実」との折り合いをつけつつ主体的に生きようとする姿勢を育むことが重要である。そのために本学キャリア教育で特に力を入れているのは、「社会の現状を理解すること」である。現状、高校までのキャリア教育では、個人の適性、欲求等を理解して将来の進学・就職に向け自分が何をやる必要があるのかを考えさせるという「個人の理想⇒個人の現実」の理解に力点を置く傾向がみとれる。社会に漕ぎ出でる前の最終教育機関として、大学では学生に「社会理解」を促す必要があり、本学ではその一端をキャリアデザインⅠ・Ⅱの授業が担っている。

4.2 授業でめざすもの

学生が「納得した人生」を目指すために大事なことを学び考える授業を目指している。納得した人生というのは、自分で選び取った人生にほかならない。さらに、自己決定が生きる上で大切なモチベーションに影響することを、心理学理論とそれを理解するための具体事例を用いて説明してい

る。「社会理解」では、働くことの意義を考えさせることに相当の時間を割いている。働くことの意義の一つ「生計を維持するため」の「生計」の意味するところに気づいた後の学生は、経済的な自立なくして精神的な自立はあり得ないことを理解し、働くことを軸に自分の人生を考えるようになる。そして、自分だけでなく社会にも自らの関心のベクトルを向けることで、社会で相応の役割を担うことが人生の充実感につながることを理解し始める。15回の授業では「個人の理想（こうなりたい・こうありたい）」⇒「社会の現実（でも、漕ぎ出せる社会はどうなっているのか）」⇒「個人の現実（自分の現状を認識し、どのような努力をすればいいのか）」⇒「社会の理想（どのような社会にしたいか、そのために自分に何ができるか）」の順に気づきを深めていく構成になっている。

4.3 授業の特徴

個人軸の内容を扱う授業では、主に、キャリア発達・動機づけに関係する心理学の諸理論を扱って個人ワークやグループワークで人間・自己の理解を深める。扱う心理学理論の研究者は、Super、Schein、Holland、Schlossberg、Krumboltz、Savickas、Hansen、Erikson、Maslow、Seligman、Herzberg、Mcgregor、Weiner、Dinklage などである。

社会軸の内容を扱う授業では、主に数値データを根拠として社会の現状説明をした後、経験談・視聴覚教材・グループワークなどで理解を深める。そして、具体的事象の理解から抽象的な汎用性のある学びに落とし込んでいく。社会の現状理解は言葉による説明だけではなく、適切な視聴覚教材を活用してできるだけ短時間で理解を深める工夫をしている。授業の内容が人生・仕事に関わるため、20代前後の学生にとっては理解を深めることが難しい内容も含まれるが、専門の心理学の知見を活かし、学生が自身の過去の経験に結びつけて想像し理解できるよう、具体的な事例を挙げて腹落ちさせる授業展開を心がけている。

「仕事の現場～働く力」では、キャリアデザインⅠ・Ⅱを通して法政大学が提案する働く力育成教材⁷⁾ 8本を視聴し、業界・職種・正社員の仕事内容について理解を深め、それぞれに共通する力＝社会で必要とされる力について考える。さらに、それらの力をつけるには大学の学びや生活のどのような場面で何を心がければいいのか、どのような行動に落とし込んでいけばいいのか、グループディスカッションなどを通して理解を深める。

授業では、毎回10分程度の時間を使って学生にリアクションペーパーを書かせる。その内容構成は、概ね①授業内容の理解度をみる設問 ②授業の感想・意見などの自由記述 ③質問 としている。教員と学生双方向の授業を展開するため、学生が書いたリアクションペーパーの内容は、講師の判断によって選んだものを次回の授業の冒頭で読み上げ（匿名扱い）している。学生の理解が不足していたり誤った解釈をしていたりする場合には改めて説明を加え、寄せられたすべての質問には汎用性のある学びにつながるよう配慮しながら回答する。1回の授業で20件以上の質問が寄せられることもあり、期末の授業評価アンケートでは毎回質問の機会が与えられていることが良かったとする声が寄せられている。初回の授業では学生がリアクションペーパーに慣れないせいか書く分量も少ないが、授業を重ねるごとに量・質とも眼を見張るものになってくる。

4.4 キャリアデザインⅠ（2017年度シラバス：表4、授業評価アンケート自由記述）

テーマは「希望」である。児美川（2013）は、「終身雇用制や年功序列型賃金を軸にした「日本の雇用」は縮小・崩壊しつつあり、非正規雇用も拡大している。転職も当たり前である。非婚化・晩婚化が進んでいるし、婚姻に至ったカップルでも、統計上はそれがゴールではなく、三組に一組は離婚する。いつ、どこで転職が訪れるかは、誰にも予測できない。そういう時代と社会には、変転の可能性を含んだ「キャリア」という言葉がふさわしい」としている。授業では、これら社会の

現状を数値データ・映像資料・文献などを用いて説明したうえで、主体的に自らのキャリアを選択することでいかようにも将来の道が開ける可能性があることを理解させる。これからの激変する社会では、社会に広くアンテナを張っておくことが重要であり、「柔軟性」「適応力」「自己決定力」が求められることに気づかせる。

表4 キャリア・デザインⅠ（2017年度）シラバス（抜粋）

授業目標	キャリアとは「人生の道筋」を意味します。社会の中で仕事と家庭生活等を両立させて充実したキャリアを築くためには、どのような道を歩みたいのか、何を仕事として何を学ぶ必要があるのか、人生の節目で自ら考え選択していかなければなりません。講義では、人生の選択に役立つ理論・知識や考え方を学びます。現在の社会情勢を知り、「働くこと」や将来の進路について前向きに考えられるようになることを目指します。そして、考えた内容を学生生活に取り入れ、自らのキャリアを意識した大学生活をスタートさせましょう。
到達目標	①キャリアの理論を学ぶことで、今後のキャリアデザインに応用することができる。 ②現在の社会・雇用情勢について学び、自らの人生について考えることによって、大学生活でなすことの手掛かりを得る。
第1回	オリエンテーション：はじめに。キャリアとは何か。
第2回	生涯のキャリア：キャリアの理論（スーパー・ハンセン）、働くことの意義①
第3回	自分を知る①：キャリアの理論（シャイン）、過去を振り返る
第4回	自分を知る②：キャリアの理論（ホランド）、自己理解と職業探索
第5回	社会を知る①：産業と職業
第6回	社会を知る②：働き方の変化
第7回	社会を知る③：労働に関する基礎知識、働くことの意義②
第8回	社会を知る④：ワークライフバランス、ダイバーシティ、男女共同参画
第9回	社会を知る⑤：社会・企業が求める能力
第10回	社会を知る⑥：仕事の現場～働く力
第11回	社会を知る⑦：企業の採用活動・大学生の就職活動
第12回	大学での学び・資格
第13回	女性のキャリア
第14回	キャリアをデザインする：キャリアの理論（シュロスバーク・クルンボルツ）
第15回	授業のまとめ・働くことの意義③

〈2017年度キャリアデザインⅠ 授業評価アンケート：自由記述欄から抜粋〉

- ・ポイントが分かりやすく、自分の今後のキャリアについて論理的に考えられる。
- ・前回の講義のリアクションペーパーの質問に答えるというスタイルの授業で質問がしやすかった点、同年代の人たちがどんなことに悩み苦しんでいるのかわかった点、そして、これらの質問に対して先生が丁寧に明確に答えてくださる点が良かった。

- ・色々の資料を通して自身の人生の道筋の立て方を学ぶことができる。理論だけでなく、映像資料や先生の体験談などを通して具体的に理解できる。
- ・DVD や具体的な数字が示されていて明らかとなる根拠がわかりやすかった。将来への不安を解消してくれる、とても価値のある授業だった。
- ・社会の現状を知ることができ、それをふまえた上で、大学で何を学ぶのか、また主体的に行動することの重要性を知ることができた。自分を見つめ直す機会を多く持てた。
- ・質問にしっかり答えてもらえる。社会について知ることができ、自分からもっと知ろう、考えよう、行動しようと思えるようになる。

4.5 キャリアデザインⅡ (2017年度シラバス：表5、リアクションペーパーの感想)

テーマは「リスク管理の視点の獲得」である。若者は人生の残り時間が年配者と比較して長いと考えられることから、ライフキャリア・職業キャリアともに長期の視点で戦略をたてることが可能となり、それがリスク管理の強みとなり得ることを説明している。貧困の現状説明の際は、学生がそれぞれの家庭に事情を抱えていることを踏まえながら慎重かつ丁寧に扱う。女性の心と体についてはLGBTの学生に配慮しながら扱う。ワークルールとファイナンシャルプランニングについては、それぞれ社会保険労務士とファイナンシャルプランナー等の専門家に説明を担当していただく。ワークルールは、働く存在としての人権を意識しつつ義務と権利の両面から労働をとらえる内容としている。学生には、社会に出た時に自分の身を守るための最低限の法律などの基礎的な知識を身につけ、社会制度にアンテナを張る重要性を理解し、将来困った時には専門家の支援が受けられる相談窓口を利用するよう伝えている。

キャリアデザインⅡでは、学生は毎週「新聞課題」に取り組む。これは、キャリア（ライフキャリア・職業キャリア：就労・雇用問題、就職・転職・退職、働き方、生き方、ものの考え方、人生、ワークライフバランス、両立支援、女性活躍推進など）をテーマとした新聞記事を自由に選び、①新聞記事の内容分析（客観情報）：メインメッセージ、補足情報（なぜ？ どういうこと？）、影響や意義など（どういう意味か？）②自分の考え（主観情報）：なぜこの記事を選んだのか、どう思ったか、意見・提案・アイデア をノートにまとめてくる課題である。そして、5回分の授業冒頭で、新聞課題の情報を共有するグループワークを行う。学生は6人程度でグループを組み、全員が持ち時間1人2分の発表と質疑応答を行う。回を重ねるごとに、記事を深く理解する、根拠をもとにした説明を行う、発表のための事前準備の大切さなどがわかってくるようである。リアクションペーパーからは、課題に取り組むことで社会の現状理解が進むだけでなく、普段交流のない他学部・他学年の学生とグループワークを行うことで新しい刺激を受けていることが伺える。課題がきっかけで、新聞記事について家族で意見交換を始めたという学生もいる。

表5 キャリア・デザインⅡ (2017年度) シラバス (抜粋)

授業目標	キャリアとは「人生の道筋」を意味します。社会の中で仕事と家庭生活等を両立させて充実したキャリアを築くためには、どのような道を歩みたいのか、何を仕事として何を学ぶ必要があるのか、人生の節目で自ら考え選択していかなければなりません。講義では、人生の選択に役立つ理論・知識や考え方を学びます。現在の社会情勢を知り、「働くこと」や将来の進路について前向きに考えられるようになることを目指します。そして、考えた内容を学生生活に取り入れ、自らのキャリアを意識しつつ社会に出る準備を始めましょう。
到達目標	① キャリアの理論を学ぶことで、今後のキャリアデザインに応用することができる。 ② 現在の社会・雇用情勢について学び、自らの人生について考えることによって、社会に出るためになすことの手掛かりを得る。

第 1 回	オリエンテーション：はじめに。キャリアとは何か。
第 2 回	生涯のキャリア①：キャリアの理論（スーパー・ハンセン）、発達心理（エリクソン）
第 3 回	生涯のキャリア②：働くことの意義・ワークモチベーション（ハーズバーグ・マクレガー）
第 4 回	生涯のキャリア③：キャリアの理論（シャイン・サビカス）
第 5 回	社会を知る①：ワークルール・労働法
第 6 回	社会を知る②：仕事の現場～働く力①
第 7 回	社会を知る③：仕事の現場～働く力②
第 8 回	社会を知る④：仕事の現場～働く力③
第 9 回	社会を知る⑤：社会で必要とされる力
第 10 回	社会を知る⑥：進路選択と就職活動
第 11 回	社会を知る⑦：ファイナンシャル・プランニング
第 12 回	生涯のキャリア④：キャリアの理論（SCCT・シュロスバーグ・クルンボルツ）
第 13 回	女性のキャリア①
第 14 回	女性のキャリア②
第 15 回	まとめ：生きる・働く・学ぶ

〈キャリアデザインⅡ 2016年度最終授業リアクションペーパーに寄せられた感想（全文）〉
 社会を知らないと冷静な判断ができないということがわかりました。社会は常に変化していくものだという事を授業で学んだからです。そのために、毎日、新聞に目を通すようになりました。変わらずに大切にしなければならない価値、忘れてはならない価値と、常に変化していく価値があることが理解できました。大学で学んでいるのは、人間にとって変わらない価値のほうなのではと思うようになりました。それは、どの仕事にも共通する力があるということを知ったからです。どの仕事にも共通する力は、人間が生きていく上で大切になってくる力であって、その力は、昔から変わらない価値や現代と共通する考えを知ることによって分かるのではないかと考えるようになりました。これからの残りの大学生活、どう学ぶか考え直すきっかけができました。人生に対する考え方、大学に来た意味を毎回考えさせられる、本当に勉強になる授業でした。
 （美学美術史学科2年生）

5. まとめ

本学のキャリア教育の授業では社会理解に重点を置き、キャリアデザインⅠ・Ⅱでは、生涯にわたって「生きること、働くこと、学ぶこと」を考え続けることの重要性を説いている。この中でも特に、「働くこと」の意義について考えを深めるように導くのは、キャリア教育が持つ使命であろう。働くことを通して何かの役に立ち喜びを感じる事がおそらく人間の本性である一方、役に立

つためには働くことで何らかの価値を提供する必要があり、それが働くことの厳しさに繋がっている。この喜びと厳しさを併せ持つ「働くこと」は、そのベクトルが自分以外の何かのために向く必要があり、それが自己の本来的使命を問い続ける人生に繋がっていくのである。学生には、学生から社会人へ、与えられる側から与える側へ、不自由から自由へ、人生を主体的に生きることの重みと喜び、責任と可能性の広がりを感じたいと考える。現在のキャリア教育は、今はまだ就職支援の一環と捉えられる風潮がある。しかし、そこから脱皮するのはこれからで、それは哲学や心理学、社会学等を包括した人間の根源的な部分を中心としたものになるはずである。若者の心に届くような形でできる教員がキャリア教育の現場では今後求められるようになって考えている。

注：

- (1) 群馬県立女子大学キャリア支援センターの設置及び管理に関する要綱 第1条
- (2) 群馬県立女子大学キャリア支援センターの設置及び管理に関する要綱 第2条
- (3) 本学教養教育のカリキュラム・ポリシーとして、「全学年の大学教育を通じて、実社会への適応能力を向上させるとともに豊かな人間性を育む」がある。
- (4) 過剰な履修登録を防ぎ、各授業の予習・復習にかかる学習量の充実を図るため、1学期に履修登録できる単位数に上限（各学期24単位）を設けている。
- (5) 授業評価アンケート「授業の満足度」：5. よく当てはまる 4. 当てはまる 3. どちらとも言えない 2. 当てはまらない 1. 全く当てはまらない の5件法で回答
- (6) キャリアデザインⅠ・Ⅱとも、同一シラバスを用い、内容をすり合わせたうえで、専任教員が2コマ、非常勤講師が1コマ、計3コマで実施している。表3の満足度は、専任教員担当2コマのみの平均値を示した。
- (7) 法政大学産学連携3Dプロジェクトが制作している、業種・職種を組み合わせた正社員の働きをドラマ仕立てのストーリーで理解することができる教材である。2017年5月現在、シリーズ1～11までと指導要領「ビデオ教材の活用法～授業での使い方」が販売されている。

参考文献：

- 児美川孝一郎 2007 権利としてのキャリア教育 明石書店
- 筒井美紀 2016 殻を突き破るキャリアデザイン 就活・将来の思い込みを解いて自由に生きる 有斐閣
- 児美川孝一郎 2013 キャリア教育のウソ ちくまプリマー新書